



Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care

NASHIM

Vol. **35**
2014

ヒバクシャ医療国際協力会通信

- CONTENTS ■ 韓国医師等の受入研修事業 (第1回) (第2回)
- 韓国への専門家派遣事業
 - 出前講座
 - 外国人教員・研究員紹介
 - 英語教科書出版



韓国医師等受入研修(長崎原爆資料館にて)

韓国医師へ被爆者医療研修を実施



蒔本ナシム会長を訪問

韓国に居住している被爆者への医療充実のため、被爆者の医療や援護に携わる韓国医師を招いて受入研修を実施しました。

第1回は6名の韓国医師が参加し、平成25年12月2日から4日までの3日間、第2回は2名の韓国医師が参加し、平成26年2月17日から19日までの3日間で行われ、長崎大学や長崎原爆病院、長崎大学病院で、被爆者医療に関する知識の習得や情報交換を行うとともに、長崎原爆資料館や平和追悼記念館を訪れ被爆の実相についても学びました。

研修生には短い期間のなか、かなりハードなスケジュールでの研修となりました。

なお、2回目の研修では、長崎県が在外被爆者支援事業の一環として招聘したブラジル人医師2名（スエリ・ユリコ・スギモト・コガ氏及びカルロス・アルベルト・ケンジ・クマガイ氏）と共に研修を受講しました。



長崎大学中島教授の講義



日本赤十字社長崎原爆病院朝長院長の講義

研修後の感想（第1回）



呉 承泳 (オ スンヨン)

慶熙医療院 精神健康医学科

講義内容の重複が多かったです。重複した内容を減らせば時間短縮に繋がると思います。原爆による精神的な問題も扱ってほしかったです。



曹 京杓 (ジョ ギョンピョ)

ソウル赤十字病院 内科

長崎は初めての訪問ですが、招待していただきありがとうございました。原爆記念館を訪問したり、すばらしい先生の方々より有益な講義を聞くことによりたくさん学んで、いろいろなことを感じました。

ひとつ不満があるとしたら講義が多すぎではないかということです。もちろん全部大事な内容であるとは思いますが、言葉の壁もあるし、講義がみっちり連続していて集中できなかったのがあります。

実は、理論的な部分は図書やインターネットにより調査して勉強することもできます。そういった自分で勉強しようとするモチベーションを与えることをこの研修の目的とすれば、もっと効率的になるのではないかと思います。

個人的には実際原爆被害者やその家族に会い、彼らの話を聞いてその苦痛や人生を感じることが出来たらもっといいと思います。そういったものは本では感じる事が出来ないからです。高齢化により被爆者の方々の話しを直接聞く機会も減っていくと思います。

<平和記念館で案内して下さった方が被爆者だとは聞きましたが、被爆体験に関する話は少なかった。>



金 相沅 (キム サンウォン)

嶺南大学校病院 放射線腫瘍学科

研修プログラムが保健・医療のほうに偏っている傾向があります。

環境分野、社会福祉分野に対するプログラムもあればと思います。

そして、福島事故にたいして事態や現実に対する内容が多かったですが、放射線漏出事故が起きた時にどういう対応をするかに対するシステムや政策について触れてないのもすこし残念でした。



李 在湍 (イ ゼナム)

釜山医療院 消化器内科

12月3日のスケジュールがハードだったのを除いたら全般的にすばらしいプログラムだったと思います。



韓 惠淑 (ハン ヘスク)

仁川赤十字病院 内科

3日目の日程がハードでした。講義内容が重複する部分が多かったのが残念です。私たちが最後の日まで熱心に案内して下さったナシム事務局に感謝いたします。おかげさまで日本人に対して好意を持つようになりました。ありがとうございました。



朴 基鍾 (パク ギジョン)

慶尚大学校病院 神経科

原爆被害の惨状と救護プログラムに対して興味を持つようになったきっかけになりました。これからも持続的に関心を持つように努力します。

講義をひとつくらい減らしてでも、歴史的に意味のある場所に訪問する時間を入れたいと思います。



長崎原爆資料館にて

研修後の感想 (第2回)



朱 鈞 (ジュ ファン)

釜山医療院 神経科

研修全般に渡ってお世話になった関係者の皆様に感謝いたします。原爆被爆者の皆様の健康と幸福をお祈りします。



成 知 錫 (ソン ジソク)

ソウル赤十字病院 内科

最初に、長崎原爆被害についてたくさんのことを学ばせていただき、ありがとうございました。期間が短かったためか、日程(プログラム)が詰め込まれている感じがして多少残念でした。原爆の被害について見て、二度とこういうことが起きてはいけないと思いつつ、ナシムのこのプログラム(=受入研修)でこれからもたくさんの人々が、こういう経験ができるように存続されていくことを願います。最後に貴重な経験ができる機会を与えてくださったことに対してもう一度感謝いたします。



長崎原爆資料館にて



恵の丘長崎原爆ホームを訪問



長崎大学松田教授の講義



ホールボディカウンターを体験



長崎大学病院を見学



蔭本ナシム会長を訪問

韓国への専門家派遣 ～被爆者医療セミナー開催～

12月12日より2日間、韓国への専門家派遣事業として、ソウル赤十字病院と慶熙大学で被爆者医療セミナーを行いました。これは韓国で被爆者治療に従事している医師等医療関係者に対し、長崎の被爆医療の最新の知見と、福島第一原子力発電所事故への対応や健康影響について、長崎大学高村教授と中根教授が講演を行いました。その内容を紹介します。

【日程概要】

- 12/12 長崎を出発し、福岡空港から仁川空港へ。
ソウルに入り、ソウル赤十字病院へ（講演）。
- 12/13 市内を移動し、慶熙大学へ（講演）。
夕方、仁川空港から福岡空港着。長崎へ。

講演者 長崎大学 原爆後障害医療研究所 社会医学部門 教授 高村 昇 氏

「福島のリスクコミュニケーション」

長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 教授 中根 秀之 氏

「原爆被爆者の精神的健康問題」



講演を行う高村教授



ソウル赤十字病院での高村教授講演



講演を行う中根教授



慶熙大学での中根教授講演

「NASHIM 専門家派遣事業セミナー報告」



長崎大学 原爆後障害医療研究所 社会医学部門

教授 **高村 昇**

今回、韓国（ソウル）において、NASHIMが主催する被爆者医療セミナーに講師として参加してきました。御承知の方も多いと思いますが、NASHIMでは在韓被爆者の診察・治療などを行う医療関係者を対象に、被爆者医療セミナーを行ったり（派遣事業）、長崎にこのような専門家を受け入れて研修を行ってきました（受け入れ事業）。

今回は、平成25年12月12日と13日に、私と長崎大学医学部保健学科の中根秀之教授が講師として被爆者医療セミナーを行いました。

セミナーは2回にわたって行われ、一回目は12日にソウル赤十字病院において医師・看護師といった職員を対象に中根教授と私の講演を行いました。私からは主に福島の実況について、特に現状の住民の被ばく線量について外部被ばく、内部被ばくのそれぞれを紹介し、長崎やチェルノブイリと異なって健康影響は考えにくいということについて講義を行いました。中根教授は特に、長崎と韓国との共同研究として進めてきた在韓被爆者の精神的影響の評価について、これまでの研究成果を報告され、さらなる研究の必要性を強調されました。いずれの報告に対しても活発な質問があり、当該分野についての強い関心がうかがわれました。私が話した福島についての話題は、韓国でも関心が高いようで、詳細な点についても質問が及びました。

二回目のセミナーは翌13日に、韓国でも有数の古い歴史を持つ慶熙大学で行われました。ここでも同様のセミナーを中根教授と私で行いましたが、前日同様、活発な質疑応答があり、関心の高さがうかがえました。

今回のセミナーは一泊二日のあわただしい日程でしたが、福島の事故から二年以上が経過したにもかかわらず、隣国韓国においてはその関心が依然として高く、医療人であっても必ずしも正確な情報をもっていないことが示唆されました。今後、被爆者医療とともに、放射線健康影響についての正しい知識の普及についても、引き続き努めていく必要があると感じました。最後になりましたが、今回のセミナーの調整をいただいたNASHIM事務局の皆様には感謝申し上げます。



慶熙大学での高村教授講演

為石小学校での出前講座



NASHIMでは、「平成の鳴滝塾～ナガサキでしか受けられない放射線の授業～」と題して、長崎大学の先生方が長崎の小中学校に出向き講義を行う「出前講座」を実施しています。

平成26年2月20日には、為石小学校5年生28名が受講し、長崎大学の松田教授が「放射線って何？」「測ってみよう放射線」の二つの講座を、児童さんにも参加してもらって楽しく行いました。

生徒さんの感想

たくさんの感想をありがとうございました。ほんとにたくさんあったので、抜粋して紹介させていただきます。

- 笑いがあってくわしくせつめいされていて、おもしろかった。かんさい弁がおもしろかった。放射線をはかってみて、おもしろくてこんなにもあるんだなと思いました。
- 最初はどんな事をするんだろうかと思っていたけれど、とても楽しくて良かったです。
- カメラのレンズはフィールドメーターがこわれるかと思うぐらいピーピーなったのでびっくりしました。
- 私は理科が苦手だけど、これからはがんばろうと思います。
- 質問コーナーでは手を挙げられなかったけど、他の人が言った質問でなるほどと思いました。
- 放射線について家に帰って、お父さんお母さんに話をしたら、「しらなかった」と言っていたので説明をしてあげました。
- クイズで私は8問目くらいでまちがいました。でも、まちがえたからまたそのことが覚えられました。
- 放射線とは見えないし聞こえないし感じないし、においません。なのでどこにあるかははかってみないとわからないということが分かりました。
- 原爆のときなどにしか放射線はないと思っていたので、今ここにもあると知ったときはびっくりしました。



- 松田先生へ。教室にも放射線があるなんて知りませんでした。インドの砂、すごかったですね。
- 来てくださってありがとうございました。クイズをしたり放射線を測ったりしてとても楽しかったです。また来年も為石小にきてください。

・・・皆さん、ありがとうございました。

外国人教員、研究員のご紹介

NASHIMでも中心的な役割を果たしている長崎大学原爆後障害医療研究所は、原爆被爆者や放射線被曝事故等による放射線障害発症機構の分子レベルでの解明と放射線被曝者の遺伝子治療を目的として研究が行われています。

また、放射線障害者（ヒバクシャ）の国際的調査や医療協力を実施し、さらに原爆後障害医療の情報センター的性格を併せ持った総合的研究施設として活動しています。

この研究施設では、チェルノブイリ事故被災国やカザフスタン共和国、またアジアの国々などから外国人教員、研究員の方たちも研究をしています。彼らに研究の内容や日本の印象などについて尋ねてみました。



原爆後障害医療研究所（外観）

1. 所属 2. 名前 3. 国籍 4. いつ日本に来たか 5. 研究の内容 6. 日本に来て感じたこと



1. 原研リスク（准教授）
2. Vladimir Saenko（ウラジミール・サエンコ）
3. ロシア連邦
4. 2000年5月
5. 甲状腺癌の分子生物学的研究・放射線誘発癌の分子疫学的研究
6. 日本人は、非常に細やかな気配りをし、外国人に対しても非常に親切で、手助けをしてくれる。また、仕事に対しては非常に熱心に取り組み、努力を惜しまない。



1. 原研国際（助教）
2. Tatiana Rogounovitch（タチアナ・ログノビッチ）
3. ベラルーシ共和国
4. 1997年10月
5. 放射線誘発甲状腺癌についての研究
6. 安全の国、日本人の優しい心、進んでいる技術



1. 原研リスク（客員教授）
2. Nadiia Bilous（ナディア・ビロウス）
3. ウクライナ
4. 2013年11月
5. 長崎大学において、チェルノブイリ原発事故後に慢性リンパ性白血病（CLL）を発症した患者さんの白血病細胞におけるTP53遺伝子と、NOTCH3遺伝子の突然変異解析を行っています。
6. 初めて日本に来ましたが、長崎での生活と仕事を楽しんでいます。
絵に描いたような景色、素晴らしい丘や美しい湾があり、私は長崎が大好きです。
とても多くの方が親切にしてくれて、助けてくれます。私は長崎大学の研究者たちの熱意に本当に感動します。そして、友好的な雰囲気の中で仕事ができることを非常に嬉しく思いますし、知識と経験を共有しようとしてくれる先生方に感謝しています。



1. 原研分子 (研究機関研究員)
2. 郭 朝万 (カク チョウマン)
3. 中国
4. 2007年11月
5. 転写共役修復開始反応の分子機能解析 (遺伝性光線過敏症の分子基盤研究)
6. 日本に来てまず感じたことは、様々なところで受けるサービスが非常に丁寧で親切だということでした。例えば最初のころ長崎市役所で手続きをする時、とても複雑で言葉も分からないので困りましたが、市役所の方の親切な対応でうまくすることができました。このような日本のサービス制度が一番印象的でした。二番目に感じたことは日本人の真面目さでした。道に迷っている私を行き先まで案内してくれた人、どこに行っても整然と並んで順番を待っている人々、約束したことを絶対守ろうとする人々…とても立派だなと思いました。日本に留学として来てとても良かったと思います、私のこれからの人生にとって貴重な経験であり、良い思い出となることでしょう。



1. 原研幹細胞 (教授)
2. 李 桃生 (リ タオセン)
3. 中国
4. 1996年1月
5. 幹細胞、心血管疾患、がん、放射線影響
6. 長年日本に住み、また約2年間アメリカで暮らしたこともあったため、特に「和」・「思いやり」など日本に特有な文化に惹かれています。
長崎市には平成23年4月から移り住み、山に囲まれている地形が生まれ故郷とよく似ているので、親近感を感じられ、とても暮らしやすい町です。



1. 原研幹細胞 (外国人客員研究員)
2. Haytham Mohammed Ahmed Ali (ハイサム アリ)
3. エジプト
4. 2013年1月
5. 放射線被ばくによる組織幹細胞影響と防御剤の開発
6. 1)日本はとても安全で暮らしやすい国です。
2)日本人はとても勤勉によく働きます。



1. 原研幹細胞 (短期研修生)
2. Bayarmaa Enkhbayar (バイアルマー エンフバイアル)
3. モンゴル
4. 2013年12月
5. 培養酸素濃度が組織幹細胞の生長に与える影響
6. 日本に来て、まず感じたことは日本人の良く働くところですね。その上に日本人はとても優しく親切です。
あと、長崎は本当に平和的で静かなところで好きです。



1. 原研分子 (大学院生)
2. 賈 楠 (カ ナン)
3. 中国
4. 2009年10月
5. DNA修復欠損性疾患の診断及び発症メカニズム解明
6. 日本人のマナーのすばらしさ、清潔さに感心しました。



1. 原研医療 (大学院生)
2. Nikitski Alyksandr (アリャクサンドル・ニキツキ)
3. ベラルーシ共和国
4. 2011年10月
5. 私は、甲状腺癌発症の分子メカニズムに関する研究を行っています。主に、甲状腺癌における転写因子Foxe1の役割を解析しています。
研究は、ある現象がどうして起こっているかわからない時、私がしていることなのです。
6. 日本人はとても礼儀正しくて、親しみやすいです。



1. 原研病理 (大学院生)
2. Mussazhanova Zhanna (ジャンナ ムサジャンノワ)
3. カザフスタン共和国
4. 2008年10月
5. 甲状腺がんゲノム不安定性の分子病理学研究
6. 長崎に来て5年が過ぎました。日本は親切心や人情味にあふれ、勤勉な人々が多くいる素晴らしい国です。誠実さという言葉がよく似あう国だと感じています！
私は関根名誉教授という素晴らしい方と仕事が出来たことを嬉しく思っています。また、同じく中島教授にも心より感謝申し上げます。彼は私に多くの知識を与え、多大なるサポートをしてくれました。自国と長崎大学原爆後障害医療研究所との連携は、カザフスタン東部にある核実験施設周辺住民に対する放射線健康被害の共同研究や彼らへの先進医療サービスの面でとても重要だと感じています。原研で、放射線関連腫瘍の遺伝子学的、病理分子学的解析の最新の技術・手法を学ぶことができ大変嬉しく思っています。近い将来、長崎大学で得た知識や多くの経験をもとに、自国へ貢献出来ればと考えています。最後に、長崎大学で関わって頂いた全ての方の、今後の発展と成功を祈っております。

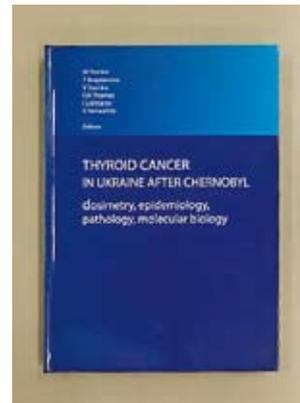


1. 原研幹細胞 (研究員)
2. 郭 昌瑩 (カク ショウエイ)
3. 中国
4. 2013年9月
5. がん幹細胞の代謝特性
6. 1)日本の街は清潔で、環境汚染もなく、とても綺麗な国です
2)日本人は自覚的によくルールを守り、静かに暮らしていることが印象的です。

図書等のご紹介

『THYROID CANCER IN UKRAINE AFTER CHERNOBYL』

著 者：M. トロンコ
T. ボグダノーワ
V. サエンコ
G. A. トーマス
I. リフタリョーフ
S. ヤマシタ



出版部数：1,000部（平成26年2月出版）

※今後NASHIMホームページでご覧になれます。

本書は、チェルノブイリ事故後、ウクライナの甲状腺がん研究で得られた膨大なデータを甲状腺の専門家からなる国際学術チームによって総括されたものです。

初めてのチェルノブイリ甲状腺癌の集学的な英語の教科書ですが、世界中の放射線医学、線量、疫学、内分泌学、腫瘍学、病理学、分子生物学などの専門家にとって有益な情報源になるものと確信されます。さらに、東京電力（株）福島第一原発事故直後から福島県では大規模な甲状腺超音波検査が行なわれています。チェルノブイリの経験と教訓を生かし、福島における学術的な研究の進展に寄与し、関係する専門家にも有益な著書となることが期待されています。

『長崎・ヒバクシャ医療国際協力会20カ年誌』（DVD版）

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）は、平成4年の発足以来、平成24年で20年を迎えました。

本書は、NASHIMの20年間の活動の足跡を記した記録集です。

作成・編集：長崎・ヒバクシャ医療国際協力会

作成部数：500枚（平成26年2月出版）

※今後NASHIMホームページでご覧になれます。



小中学校で出前講座を開催します

ヒバクシャ医療の国際協力や放射線被ばく医療等についての知識などを普及するため、長崎大学の先生方に小中学校へ出向いていただきて講義を行う出前出張講座を実施しています。平和と科学・医療に関する国際協力への興味・関心を促すことのできる楽しい講座です。

下記の幅広いメニューを小中学生の皆さんにわかりやすく説明しますので、興味をお持ちでしたらぜひ事務局までご連絡ください。



講座メニュー

放射線って何？－身近な放射線の話

放射線・紫外線とわたしたちの健康

長崎原爆の話

原爆直後の救護活動と調査

長崎原爆被爆者のこころの調査

放射線といのち